4 まわりのまちとの協力

福岡市では、ごみ処理しせつをつくるための広い土地がなかったので、となりまちの久山町に協力をお願いして、久山町に埋立場を一緒につくることに取り組みました。

ごみ処理しせつがつくられるまで

東部(伏谷)埋立場ができるまで

東部 埋立場

昭和63年埋め立て開始

埋め立てできる総量

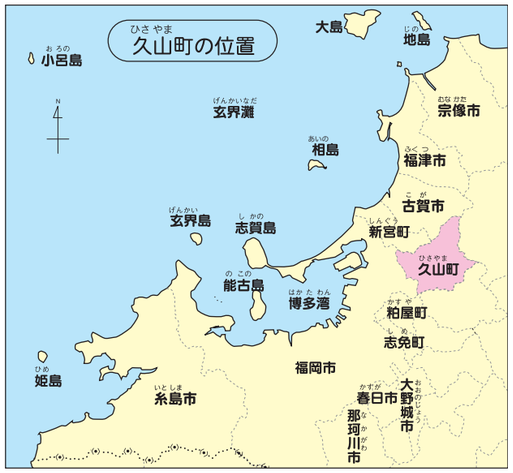
約510万トン

福岡市のごみは、東部埋立場のほかに、西部埋立場とグリーンヒルまどかにも運ばれています。

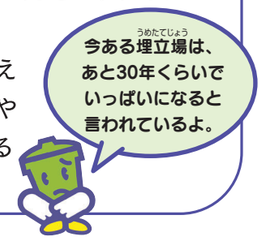
埋立場に運ばれる
ごみの量は、福岡市全体で
1日 約292トン

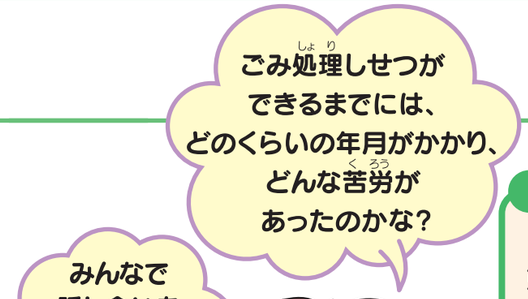
子どもの平均体重を30kg
とすると(9歳平均 福岡県データ)
約9,700人分

埋立場はかんたんに作ることはできないため、埋立場に運ばれるごみをできるかぎりへらすことが大切です。



- 東部埋立場は、水のよごれやごみを運ぶことなど、埋立場ができる久山町の人たちの心配を一つひとつ解決していったため、計画から完成するまでに10年もかかりました。
- ごみがふえたからといって、簡単に埋立場などのごみ処理しせつをつくるというわけにはいかないのです。
- 福岡市は 先のことを考えながら、たくさんのお金や広い土地をじゅんびするようにしています。





昭和53年(1978年)

福岡市が、新しく東部埋立場をつくる計画をたてました。

昭和54年(1979年)

福岡市の東部に埋立場をつくる場所がないので、となりの久山町に協力をお願いしました。

昭和55年(1980年)

福岡市と久山町のごみ処理担当の人たちと久山町に住む人たちとで埋立場をつくることについて話し合いをしました。その中で反対意見もたくさん出ました。

昭和56年(1981年)

工事の車やごみを運ぶ車のための専用の道路や、水をよごさないための専用の用水路を作ることを決めました。

昭和57年(1982年)

福岡市は、久山町に住む人たちと何度も話し合いました。また、県外の埋立場を見学してもらい、ごみの埋め立てが安全で大切であることを分かってもらうことができました。

昭和58年(1983年)

久山町に住む人たちの同意のもと、専用道路や用水路の工事が始められました。同時に埋立場の建設も始まりました。

昭和63年(1988年)

計画してから10年もの長い年月をかけて、埋立場が完成しました。この埋立場には福岡市のほかに久山町のごみも運んでいます。

ねらい 解説

- 埋立場へ運ばれるごみの量は、令和4年度の実績です。
- 今までに埋め立てられた量は、令和5年3月末までの数字です。
- 東部埋立場所在地/糟屋郡久山町大字山田字伏谷
- 埋立場の特色/地下水汚染など環境汚染の防止には、万全の策を講じ、動植物の生息や景観などの自然環境の保全を考慮しています。施設は山を削って出た土と石でつくったダム形式で、高さ42m、幅128m。汚水は専用の処理場で処理した後、公共下水道に放流しています。

ねらい 解説

★ごみ処理施設を建設するために長い年月をかけて計画したり、周りの市や町と協力し合っていることに気付かせてください。

- 福岡市は、ごみ処理施設の設置(春日市、大野城市、久山町)や水資源の確保(那珂川市、久山町、篠栗町、大野城市、糸島市)など、都市が単独で解決することが困難な事業について、周辺の市町と協力し合っています。
- 清掃工場は、近隣の市町がそれぞれ建設するよりも1か所にまとめた方が、効率的な運転により環境負荷を減らすことができることから、福岡市は、春日市・大野城市・太宰府市・那珂川市と共同して、清掃工場と埋立場を建設しました。